

医療情報連携ネットワーク支援Navi

サイト内検索



医療情報連携ネットワークとは

調査・報告

ピックアップ事例

事例を探す

構築手順

FAQ

用語集

お役立ち情報

医療情報連携ネットワーク支援Navi > とねっと-更改Step

ピックアップ事例



とねっと (平成24年稼働)

埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会 (埼玉県加須市)

☎ 0480-63-0003

📄 [公式ホームページ](#)

※平成30年3月時点

(全体概要は令和2年2月1日時点の情報を掲載)

全体概要

- 概要
- 特徴
- 成功要因
- ネットワーク構築時の苦労
- 構築する方へのメッセージ

計画Step

1. 地域課題、要求事項の抽出
2. 必要性の検討
3. 事業概要の決定
4. 事業運営主体の組織の設置
5. 個人情報保護方針などの作成
6. ガイドライン・標準化規格などの確認
7. システム化方針決定
8. 事業計画・収支計画立案

構築Step

1. 工程管理
2. 仕様書作成・調達
3. 要件定義・設計
4. 構築
5. テスト

運用Step

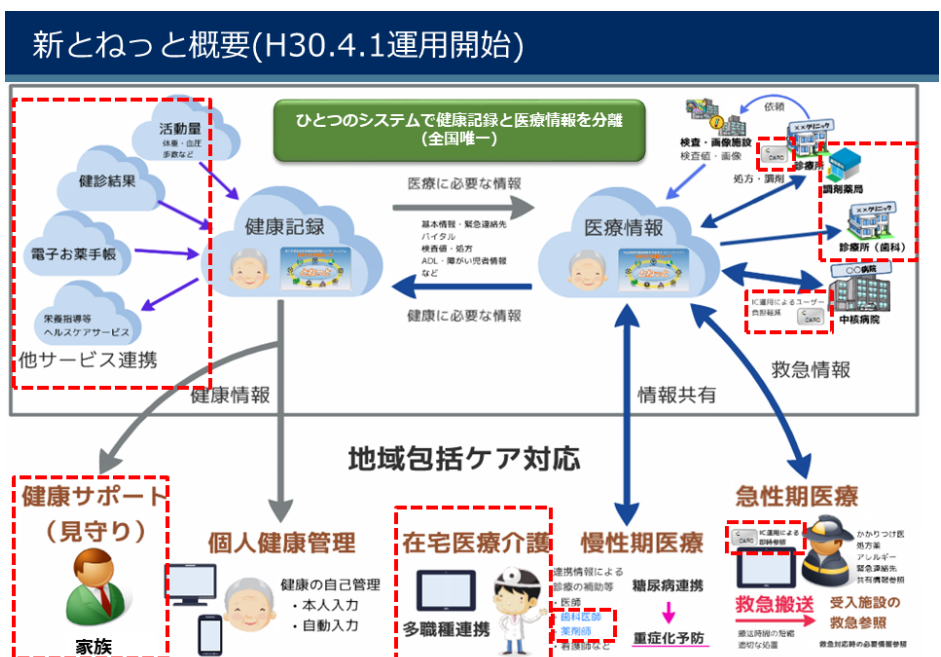
1. 運用に向けた文書作成
2. システム運用保守体制決定

更改Step

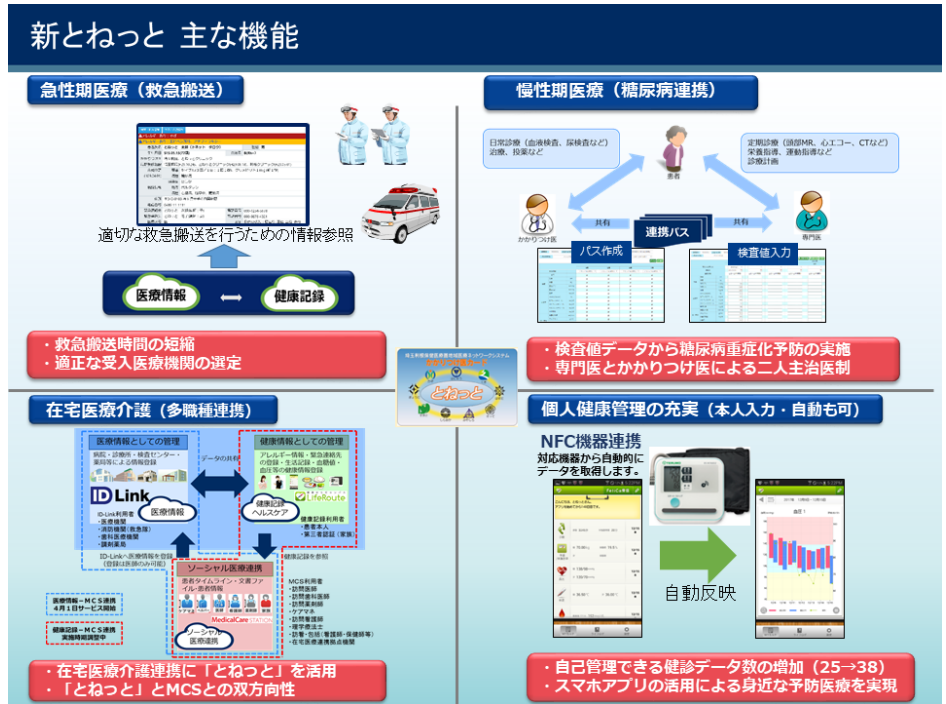
1. 医療情報連携ネットワークの改善事項検討

とねっとでは、30年4月のシステム更改を予定している。

図表：更新後の「新とねっと」の概要



図表：更新後の「とねっと」の主な機能



出所：埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会提供資料

- 3. 参加機関の募集・説明・契約
- 4. 設備工事・導入
- 5. 参加患者募集
- 6. 評価・課題整理

更改Step

- 1. 改善事項検討

1) 仕様アップデート・使い勝手の改良

SS-MIXからSS-MIX2仕様に規格を変更する。医師の認証に使われるHPKIを実装して文書作成時の手間を軽減する。他には、システムの立ち上がり時間を短縮、電子カルテからIDを引き継ぎ、スムーズに「とねっと」画面が見られる、といった使い勝手の改善を図る。

2) 施設側の端末も利用可能に

「とねっと」の参照端末は固定IPが振られ、使用できるのは専用回線・専用デスクトップ型PCに限られていたが、施設が所有するノートPCやタブレットでも参照が可能になる。

3) 薬局の参加と調剤情報の共有

診療所からの情報は、外注する臨床検査施設からのデータに限られていたが、調剤薬局が参加することで調剤情報が共有できるようになる。データの共有手段としては、電子お薬手帳サービスのQRコードを読み込んで共有する形式も用意する。

4) 複数の診療科での情報共有

セキュリティ上の問題から「とねっと」を閲覧できる端末は一施設一台となっていた。中核病院では自前でVPN網をつくり、複数端末が閲覧できる環境を整備するところもあったが、この「一施設一台」に対しては「使いにくい」「不便」との声が大きかった。更新後は、院内のイントラネット・電子カルテシステム内で「とねっと」を閲覧できる機能を取り入れる。

5) 医療介護情報共有サービスとの連動

埼玉県は全域で在宅医療・介護連携を目的としたSNSサービス「メディカルケアステーション」(MCS)を導入しており、このサービスと「とねっと」の連携を強化する。今回新たに採用される「ID-Link」にはMCSとの連携機能があり、MCS側から「とねっと」内の健康記録を呼び出して閲覧することができる。今後はケアマネジャーや訪問看護・介護、リハビリなどの多職種連携が進むことが期待されている。医療機関を超えて情報を共有するため、利用者側が情報を公開する範囲を選ぶための仕組みを設ける予定だ。

6) 参加医療機関増

平成30年2月末現在、参加施設数は101、医療圏内の約3分の1にあたる。今回のシステム更新と機能拡充を期に、参加施設は100増の200を目指す。ここでは主に診療所・歯科診療所の参加を見込む。新たに参加可能となった調剤薬局は50施設の参加を目指す。さらに埼玉県立小児医療センターという医療圏を超えた拠点病院の参加も決定している。

7) 連携対象の臨床検査データの拡大

連携対象を拡大し、ほぼ全ての臨床検査施設のデータが連携される仕組みを構築する。

8) サーバーの集約化

これまで、「とねっと」に参加する臨床検査施設には、SS-MIXサーバー・ゲートウェイサーバーが必要となり、設置場所や保守費用が大きな負担となっていた。更新の際には、現状の仕組みとあわせてデータ転送プログラムを導入し、プログラムの入ったPCのみでデータ送付ができるようになる。導入の手間・コストが低減することで、参加のハードルを下げる。

9) 画面構成の変更

更新後は連携するシステム・サービスが増えるが、複数インターフェースを使い分ける煩雑さを低減するため、ログイン画面を統一するなどの仕様を変更する予定だ。

10) ICチップの採用

最初に利用者IDを打ち込む、という従来の方法は「緊急時に不便」「打ち間違いが起きる」などの声があった。更新後はICチップを貼り付けたカードを発行する。以後はカードをかざすだけで基本情報が提示され、検索や紐付けの手間が減る。従来のカードの所有者には、希望に応じて協議会事務局や行政窓口でICチップのタグシール貼り付けることで対応する。

11) 健康記録サービスの連動

利用者側が各種健康アプリ経由で自分の健康状態を記録する機能が追加される。診療情報との相互連携も行われ、自分の健康状態を一元的に管理できる。今後、行政がデータ利用者として参画する可能性も検討されており、具体的には、小児医療や生活習慣病等、医療だけではなく介護や福祉、教育など、多くの関係者が関わる利用者の情報を共有し、スムーズな支援につなげるという構想が描かれている。実際にこの機能は保健師からの注目度が高く、「住民の健康管理に使いたい」との声が寄せられているという。

12) 第三者への参照権限

利用者本人はもとより、本人同意のもと、家族にも閲覧権限を拡大する。また、将来的には行政が個人の健康情報を閲覧し、介入することで効果的な予防医療につなげる構想もある。

13) 事業者変更による保守費用低減

システム更新後には従来のNTTデータからNECにシステム事業者を変更し、NECのネットワークシステム「ID-Link」を採用した。従来「とねっと」のデータセンターに集約されていたデータはID-Linkの採用によって分散型になるが、救急などで活用される最低限のデータについてはID-Link上でも保持し、健康記録側にも保持するシステムにすることを検討している。

システム更新費用は「地域医療介護総合確保基金」で確保した。保守費用は協議会が負担し、その他の運用費についても参加施設の利用料で5分の1程度を賄う以外は協議会の負担だ。今回、システム事業者を変更することにより、保守費用を3分の1以下にまで低減できた。「ネットワークは継続することが一番大切で、そのために保守費用を安くすることは大前提。」と栗原氏は言う。

さらに広い連携を目指す

システム本格稼働から1年あまり経った頃、「とねっと」に新たに利用者登録した住民に「参加医療機関一覧表」を配ったところ、「自分の通っている診療所がない。それならかかりつけ医を変えない」と、実際に通う診療所を変えた、という例があった。「小さな例ですが、これは大きな変化。自分の健康維持や救急時への対応への活用から主体的な判断をしたわけですから」と渡辺氏は言う。

行政主体という点が注目され、計画時から行政・医療関係者の視察が相次いで、既に80を超える数を受け入れている。平成28年の埼玉県地域医療構想では、「県全域にICTを活用した地域医療ネットワークの機能強化を図る」という旨が明記された。

「そうした面で一つのモデルとなれたのでは、という自負はある」と加須市の大橋市長は言い、さらに「『大病院に行けば治してくれる』といったお任せ的な意識を変え、市民レベルで『自分の健康は自分で守る』という発想に変えていく。そうした意味で加藤医師会長は、『とねっと』はある種の社会実験だとも思っている」と説明する。

これまで、利根保健医療圏の7市2町のみが「とねっと」の対象範囲であったが、利根医療圏の医療機関の連携だけでは地域完結型医療を実現することは難しい。特に医療圏の境に位置する自治体では他医療圏との連携が不可欠となる。よって、このネットワークを他医療圏へも広げていくことが次の目標となり、事務局は関連他自治体との協議のほか、県を通じた働きかけも進めている。

「システム更新後の5年間、どのくらい『とねっと』の参加施設・利用登録者が増加し、そして実際に利活用されるか。この医療情報ネットワークがその後も続くかどうか、更に発展するかどうかは、そ

ここにかかっている」と関係者は口を揃える。

[全体概要](#) > [計画Step](#) > [構築Step](#) > [運用Step](#) > [更改Step](#)

[← ピックアップ事例一覧へ戻る](#)

[← TOPへ戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#) 

[▶ 医療情報連携ネットワークはなぜ必要？](#)

- [▶ 出発点は地域医療を良くしたいという思い](#)
- [▶ 医療情報連携ネットワークの導入効果](#)
- [▶ 利用者の声（導入効果）](#)

[▶ 医療情報連携ネットワークをどう作る？](#)

- [▶ 医療情報連携ネットワークの構築手順](#)
- [▶ 実施のポイント](#)
- [▶ 利用者の声（苦労した点、成功要因）](#)
- [▶ ガイドライン、書式例など](#)

[▶ 医療情報連携ネットワークの具体例を見る](#)

[▶ 医療情報連携ネットワークとは](#)

- [▶ データで見る](#)
- [▶ ピックアップ事例](#)
- [▶ 事例を探す](#)

[▶ 構築手順](#)

- [▶ 構築手順について](#)
- [▶ Step1：計画](#)
- [▶ Step2：構築](#)
- [▶ Step3：運用](#)
- [▶ Step4：更改](#)

[▶ FAQ](#)

- [▶ 用語集](#)
- [▶ お役立ち情報](#)
- [▶ リンク集](#)
- [▶ 資料ダウンロード](#)